

4-9 伊東市赤沢1号温泉の最近の状況について

Water Quality of the Akazawa No. 1 Well in recent years

地質調査所
Geological Survey of Japan

赤沢1号温泉の水質が、伊豆東方沖の地震、それも地震の規模に応じて変化（溶存成分が減少）すること、また変化のメカニズムについて前報¹⁾で報告した。本観測井において、1990年11月より自噴量、導電率及び水温の連続観測を開始したので、これまでの観測結果と併せて報告する。

第1図は自噴量、導電率の経時変化であるが、自噴量は僅かずつ減少、逆に導電率は増加し、逆相間の動きを示している。

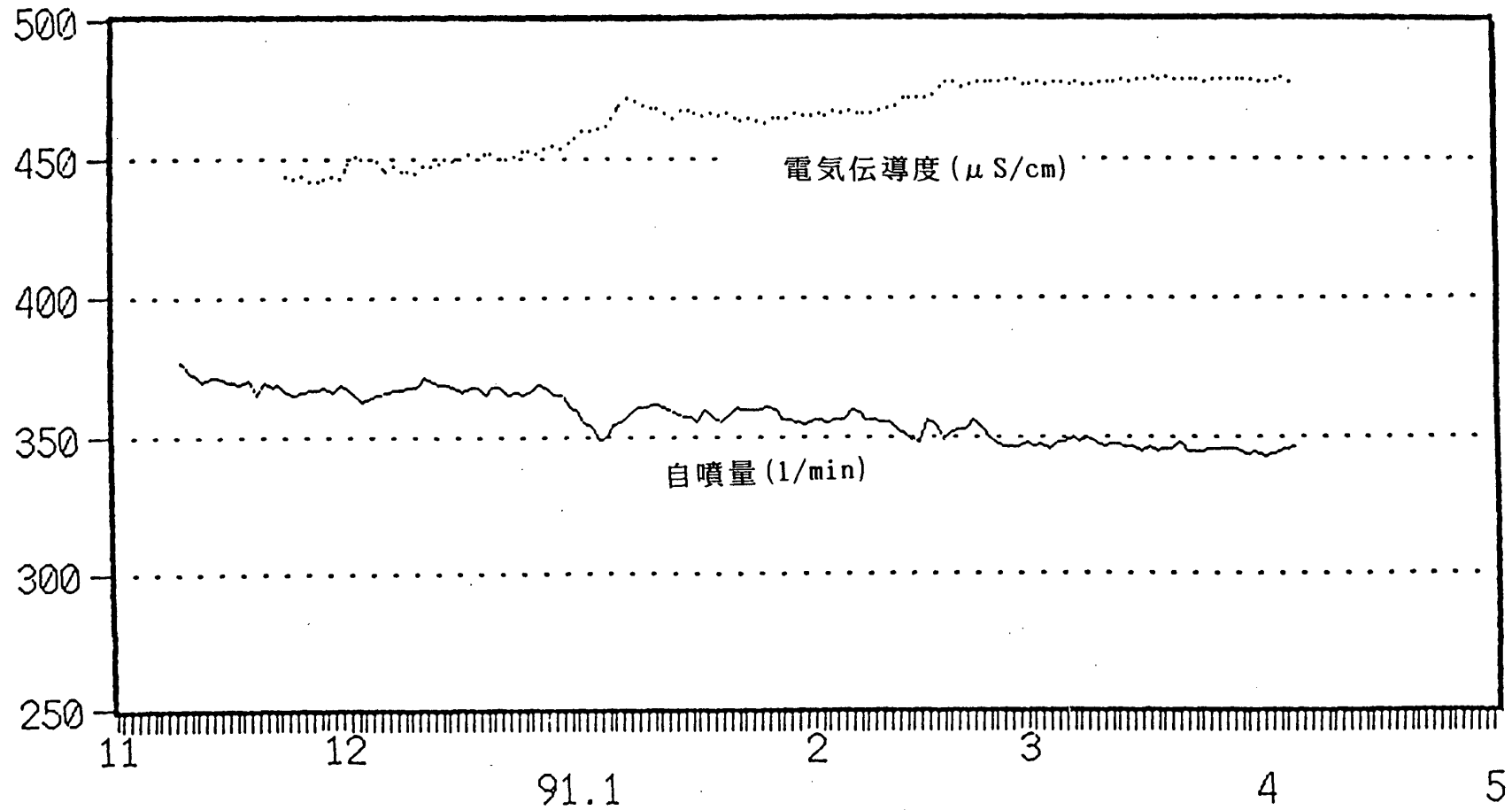
第2図は塩化物イオン濃度の1979年観測開始以来の経年変化である。濃度は1990年2月の伊豆大島近海（M6.5）のあと急激に増加し、1991年5月現在、観測開始以来の最高値を示している。これまでは同井のCl⁻濃度が高くなったときに、1～2年に1度の頻度で、近くで地震が発生しており、注目される。

（永井 茂，吉川清志）

参 考 文 献

- 1) 地質調査所：伊東市赤沢1号線の地震前後における水質変化，連絡会報，45(1991)，270-274.

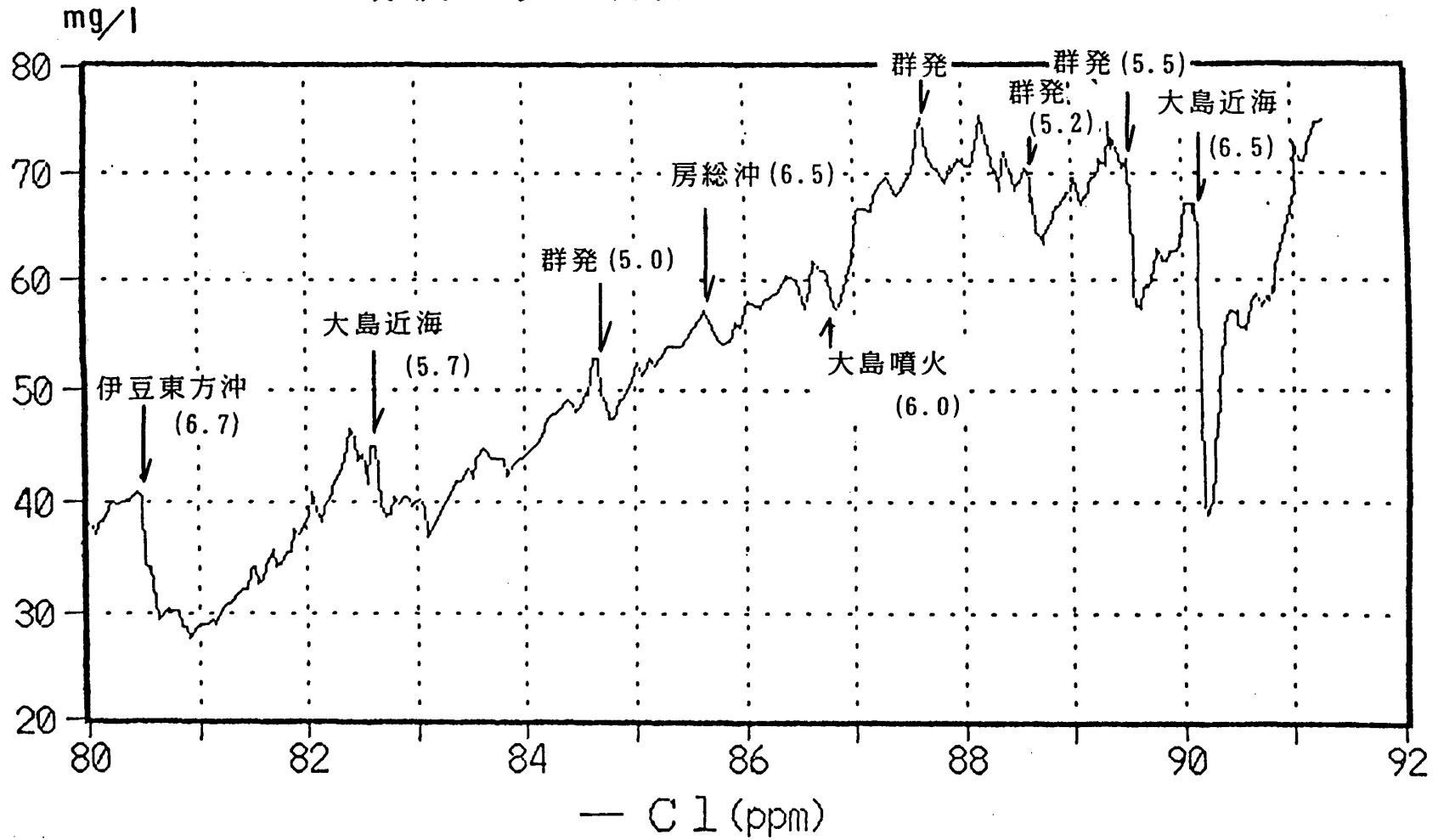
赤沢 1 号の自噴量・電気伝導度経時変化（連続観測）



第 1 図 赤沢 1 号の自噴量・電気伝導度経時変化（連続観測）

Fig. 1 Variation of discharge rate and electro-conductivity of water in the Akazawa No. 1 well.

赤沢1号 塩化物イオン経時変化



第2図 赤沢1号の塩化物イオン経時変化

Fig. 2 Variation of Cl concentration in water in the Akazawa No. 1 well.